



**profile**

かわむらようこ / 1998年中央大学法学部法律学科卒業後、㈱ティシーカード(現UFJニコス)に入社。2000年に渡米し、8月よりアラバマ大学バームングハム校公衆衛生大学院に入学、5年間で修士と博士課程を修了。2006年12月帰国後、2007年2月からベネッセ教育研究教育センターに研究員として約1年間勤務し、2008年4月より国立がんセンター(現国立がん研究センター)がん対策情報センターでリサーチレジデントとして勤務。2009年8月より現職。2010年より熊本大学男女共同参画コーディネーターを務める。

45p 写真左：私の恩師である Dr.Connie Kohler との一枚  
写真右：共同研究している研究者仲間(左上/順天堂大学湯浅先生、右上/日本女子体育大学助友先生、右/テキサス大学エルパソ校 Dr. Arvind Singhal)

Role Model  
**35**

# 思いや夢は、“言葉”にして発信し続けましょう！

河村洋子 熊本大学政策創造研究教育センター准教授

- 法学部
- 民間金融企業(総合職)
- 米国留学
- 修士・博士課程
- 企業(研究員)
- 国立研究所
- 大学教員

難のない人生は無難な人生、難のある人生は有り難い人生。

One day	
6:00	起床
7:30	大学へ(メールチェックなど)
8:45	ミーティングや打ち合わせなど 県内、国内外の出張も多い。 研究活動、センターの業務
18:00	日中でできなかった研究や業務
20:00	ジムやランニング(運動と食事)
23:00	家事など家の中のこと
24:00	就寝(6時間の睡眠時間を確保)



Yoko KAWAMURA

総合領域(応用健康科学)

## 健康のありがたさを痛感し、たどり着いた研究テーマ

大学の法学部を卒業後、民間の金融企業に総合職として入社。その後ストレスで体調を崩したことをきっかけに「健康に関することを学びたい」と思い始め、それまで思い続けていた留学を決意。アメリカの大学で5年間学んで博士課程を修了いたしました。帰国後は民間教育センターの研究員や、国立がんセンターでリサーチレジデントとして勤務。いくつかわからないほどの公募応募を経て、2009年より現職に就いています。

子どもの頃にはまさか自分が研究者になるなんて想像だにしていませんでした。しかし、博士課程のメンターであるDr.Kohlerに出会ったことで、「彼女のような研究者・教育者になりたい!」と思うようになりました。他にも大学院で私の専攻には女性研究者が多く、ロールモデルが身近にたくさんいたというのも幸運なことだったと思います。

## “楽しみ”と“教育”の融合が新しい手法を生み出す

私の専門は『ヘルスコミュニケーション』です。これは『公衆衛生学』の一分野で「人びとに健康的な行動を促すためには、どのような内容の情報をどのように伝達するのが効果的か」を探る極めて実践的な健康領域です。私が特に力を入れているのが『エンターテインメント・エデュケーション』という分野です。これは“楽しみ”と“教育”を融合させたもので、例えばドラマや演劇などに教育的なメッセージを盛り込み、観る人がドラマの登場人物の言葉や行動を通して知識を身につけたり、自分に引き寄せて考える機会を提供する手法です。その制作を学生たちと一緒に取り組むというのも非常にエキサイティングなんです。



## 平日は仕事人、週末は家庭人(でありたい)

留学時期を含め、大学時代から縁の続いた現在の夫とは、週末婚状態。というのも、夫は税理士として福岡の企業に勤めているからです。そのようなこともあり平日は仕事中心の生活ですが、週末はできるだけ“家庭人”として夫との時間を大切にしよう心がけています。仕事に没頭できるのも「家事は出来る方がする」という理解ある夫のおかげですし、また彼の存在は、ややもすると働き過ぎになる私を制してくれるので、とても感謝しています。

これからさまざまな選択をしていくであろうみなさんへ伝えたいこと。それは「自分自身に枠を設定しないで、臆せずチャレンジしてみてください!」ということ。関係ないと思うことでも、少々大変かなと思えることでも、与えられたチャンスには精一杯取り組んでほしいと思います。そして“思い”や“夢”は言葉として語り続けてください。失敗したとしても、その経験さえも必ず人生の肥やしとなりますから!